

横浜冷凍株式会社 証券コード2874

第77期(2024年9月期)

決算説明会

人とおいしさのあいだに



1

特別損失計上と過年度の決算訂正について

1. 特別損失計上と過年度の決算訂正について
2. 2024年9月期 決算実績
3. セグメント別 決算実績
4. 中期経営計画の進捗状況
5. 2025年9月期 通期業績予想

背景

2024年9月期の決算業務の実施過程において、南米ペルーの取引先（以下、「当該取引先」）の財務内容が悪化している可能性を把握し、当該取引先の財務内容及び担保の処分見込額等について詳細調査を実施

訂正内容

収益認識 に関する 会計処理 の訂正

- 当社と当該取引先との商品の購入取引及び販売契約に係る取引について、契約内容の経済的実態を改めて検討した結果、実質的に金融取引であることが判明したため、当該取引に関する収益認識に係る会計処理を過年度に遡って純額処理(営業外収益 受取手数料)に訂正する必要があると判断

特別損失 の計上

- 検証・協議の結果、債権区分評価を見直し、売掛債権や貸付金等に関する引当金を2023年9月期決算で特別損失として計上

訂正報告書・期間

- 有価証券報告書： 2021年9月期～2023年9月期
- 四半期報告書： 2022年9月期第1四半期～2024年9月期第2四半期

訂正による過年度業績への影響額

2023年9月期

	訂正前(A)	訂正後(B)	影響額(B-A)	増減率
売上高	133,862	125,598	△ 8,264	△6.2%
営業利益	3,785	3,588	△ 197	△5.2%
経常利益	4,203	4,133	△ 70	△1.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,831	△ 10,731	△ 13,562	—

- ・売上高は82億円減少
- ・特別損失の内訳（135億円）：貸倒引当金繰入額64億円、投資有価証券評価損26億円、債務保証損失引当金繰入額44億円

2024年9月期

	訂正前(A)	訂正後(B)	影響額(B-A)	増減率
売上高	122,540	122,282	△ 258	△0.2%
営業利益	4,002	4,647	645	16.1%
経常利益	3,633	4,808	1,175	32.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	3,088	3,933	845	27.4%

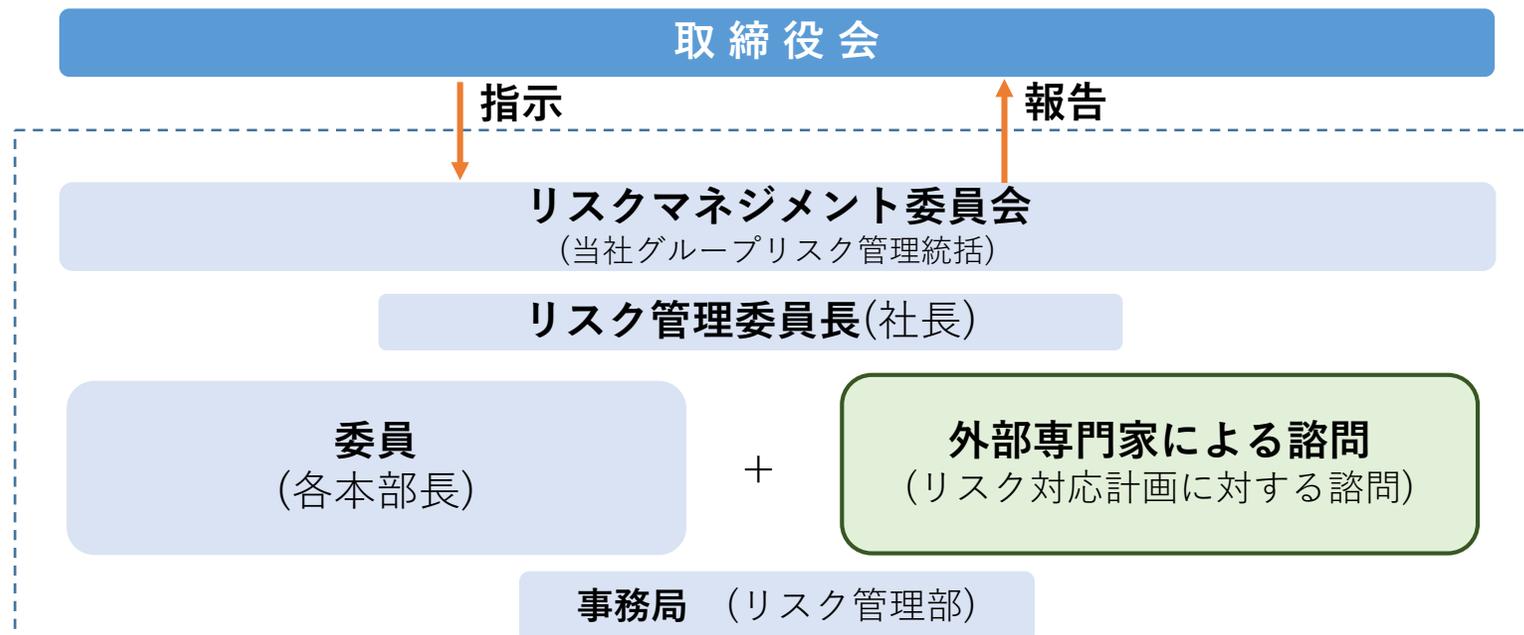
- ・当初決算発表数値から
貸倒引当金繰入額の取消6億円、過年度貸倒繰入額戻入2億円、その他為替差益3億円の合計11億円の増益

リスクマネジメント委員会の設置

目的

- ① リスクの未然防止・早期発見・適切な対応を可能とする持続的・実効的・組織的な仕組みの構築、整備とその運用
- ② 既発生事案の検証と再発防止

リスク管理体制



4つの体制

- ① 経営が能動的にリスク把握を行う体制
- ② 外部専門家諮問を受ける体制
- ③ リスクの特定を適切に行う体制
- ④ 進捗管理及び改善指示体制

株主の皆様をはじめとする関係者の皆様には、多大なるご迷惑とご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

また、今回の過年度決算の訂正及び特別損失の計上による影響を考慮し、2025年1月から3か月間、取締役会長、代表取締役社長及び常務取締役は、取締役基本報酬の30%を自主返上し、その他の常勤取締役は、取締役基本報酬の10%を自主返上することといたしました。また、2024年9月期の役員業績連動賞与は、支給対象となる取締役及び執行役員の全員について、不支給とすることといたしました。

今後は再発防止策を適切に策定・実施し、株主様、関係者の皆様の信頼回復に努めてまいります。

詳細の内容および訂正数値につきましては、以下の開示資料をご覧ください。

2025年1月6日公表

- 「過年度の有価証券報告書等の訂正報告書の提出及び過年度の決算短信等の訂正に関するお知らせ」
- 「財務報告に係る内部統制の開示すべき重要な不備及び内部統制報告書の訂正報告書の提出に関するお知らせ」

2024年9月期 決算実績

Financial Summary for FY2024

1. 特別損失計上と過年度の決算訂正について
2. 2024年9月期 決算実績
3. セグメント別 決算実績
4. 中期経営計画の進捗状況
5. 2025年9月期 通期業績予想

売上高は減収ながらも、売上総利益率の改善により**増益**

売上高

1,222.8億円

前期比 \triangle 2.6%

営業利益

46.4億円

前期比 **+29.5%**

冷蔵倉庫事業

- 需要増により在庫量、出庫量、在庫量ともに順調に前期を上回り増収・増益
- タイの連結子会社においても取扱量が増加し、増益に貢献

食品販売事業

- 水産物は利益重視の販売の取組により減収ながらも増益
- 畜産物はインバウンドや外食向け需要回復し、増収・増益

- 売上高122億円(前期比△2.6%)、営業利益46.4億円(前期比+29.5%)の減収増益

(単位:百万円)

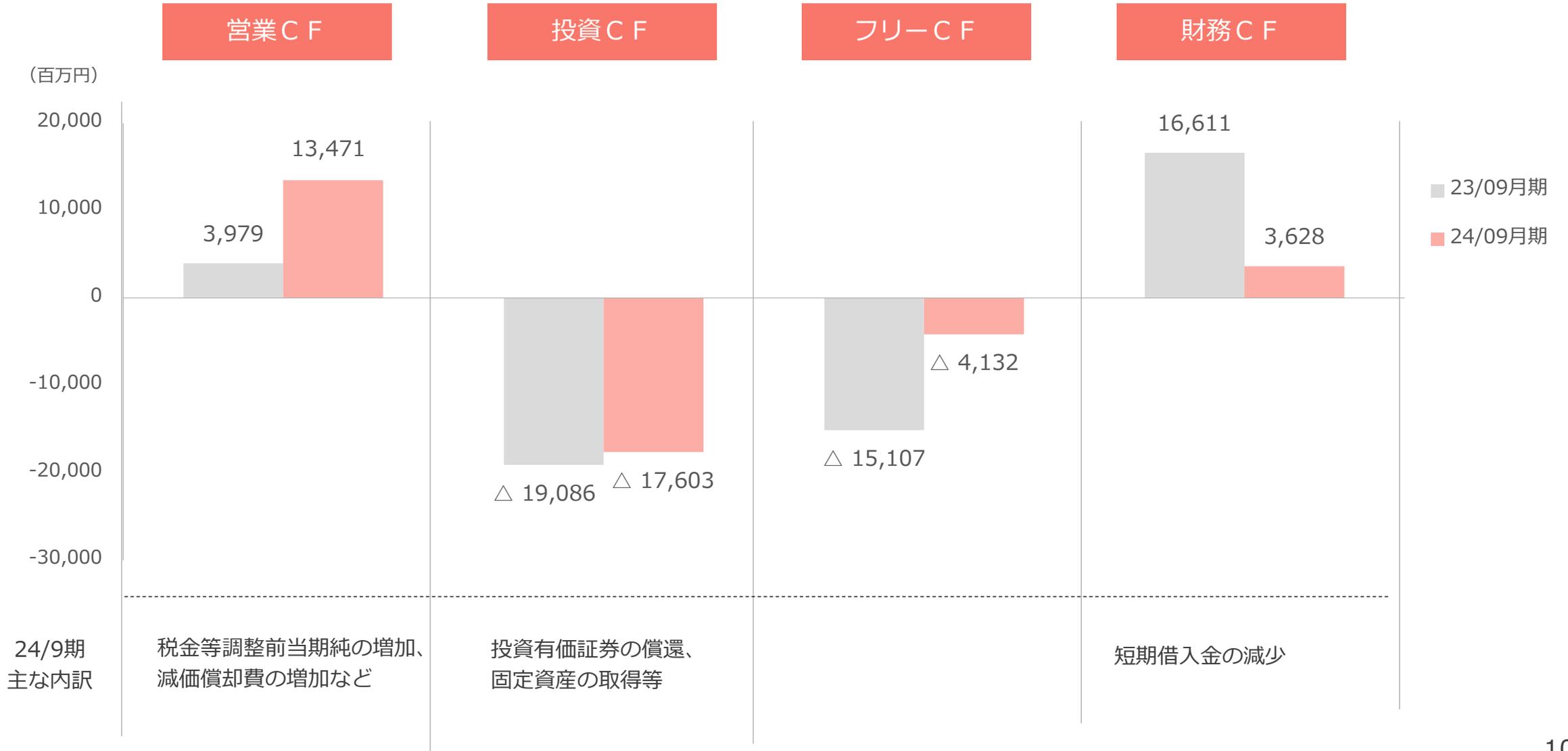
	23/09期	24/09期	前期比		24/09期 予想	
			増減額	増減率	通期業績予想	達成率
売上高	125,598	122,282	△3,316	△2.6%	139,000	88.0%
売上総利益	12,628	13,664	+1,036	+8.2%	—	—
売上総利益率	10.1%	11.2%	+1.1pt	-	—	—
営業利益	3,588	4,647	+1,059	+29.5%	4,550	102.1%
営業利益率	2.9%	3.8%	+0.9pt	-	—	—
経常利益	4,133	4,808	+675	+16.3	4,750	101.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△10,731	3,933	+14,664	-	3,050	129.0%
設備投資額	12,378	21,554	+9,176	+74.1%	—	—
減価償却費	6,581	7,365	+784	+11.9%	—	—
E B I T D A	10,169	12,012	+1,843	+18.1%	—	—
自己資本比率	38.2%	38.5%	0.3pt	-	—	—

- 有形固定資産の増加は「恵庭スマート物流センター」「夢洲第二物流センター」竣工が主な要因

(単位:百万円)

資産	23/09期末	24/09期	増減	負債・純資産	23/09期末	24/09期	増減
流動資産	39,270	36,270	△3,000	流動負債	39,067	43,643	+4,576
受取手形及び売掛金	16,523	13,370	△3,153	支払手形及び買掛金	4,568	4,573	+5
商品	14,816	16,295	+1,479	1年以内償還予定の社債	-	10,000	+10,000
短期貸付金	870	825	△45	その他	5,693	7,277	+1,584
固定資産	148,993	166,756	+17,763	固定負債	75,855	79,511	+3,656
有形固定資産	101,168	115,399	+14,231	長期借入金	38,586	52,854	+14,268
投資有価証券	39,401	43,239	+3,838	純資産	73,340	79,871	+6,531
総資産	188,263	203,026	+14,763	負債及び純資産	188,263	203,026	+14,763

連結キャッシュフロー計算書



セグメント別 決算実績

Segment Result

1. 特別損失計上と過年度の決算訂正について
2. 2024年9月期 決算実績
3. セグメント別 決算実績
4. 中期経営計画の進捗状況
5. 2025年9月期 通期業績予想

セグメント別 損益

冷蔵倉庫事業

- 需要増により在庫量、出庫量、在庫量ともに順調に前期を上回り増収・増益

食品販売事業

- 水産物は利益重視の販売の取組により減収ながらも増益
- 畜産物はインバウンドや外食向け需要回復し、増収・増益

(単位:百万円)

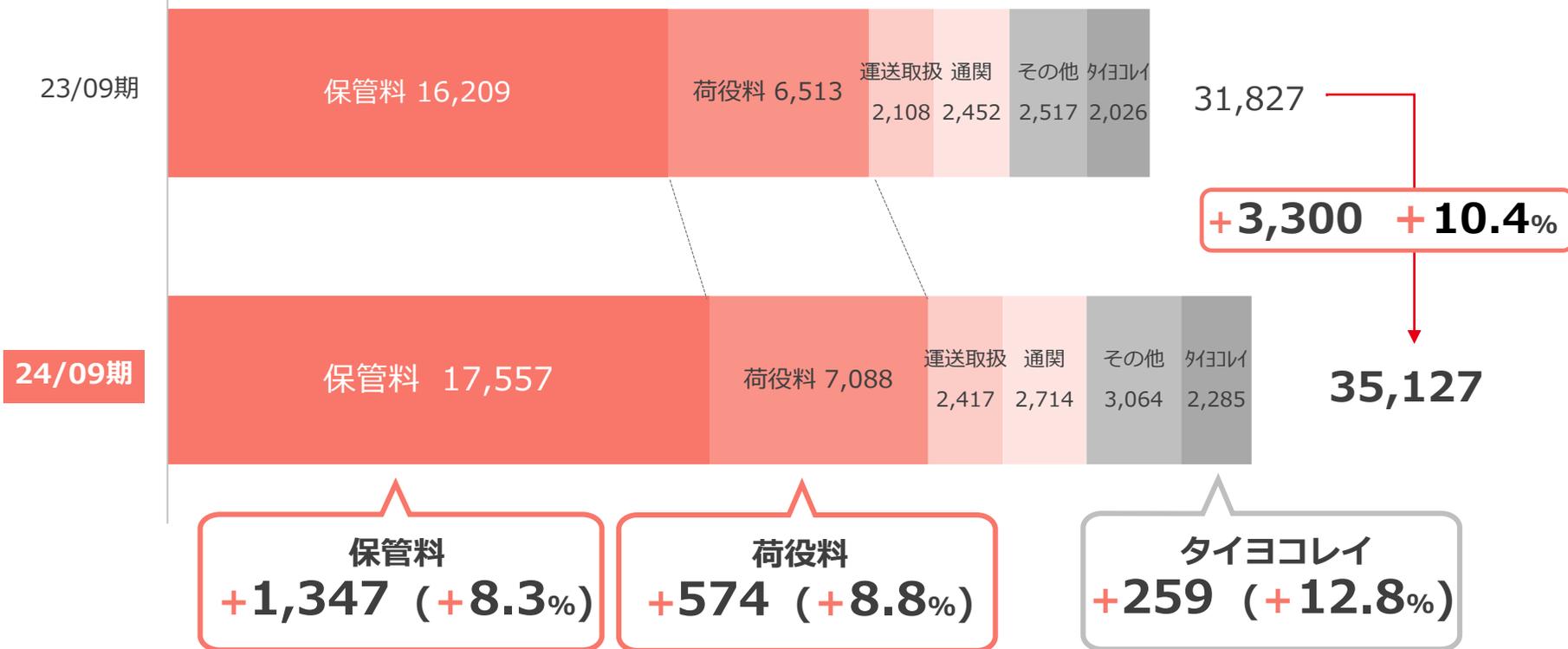
	23/09期	24/09期	前期比		24/09期予想	
			増減額	増減率	通期予想	達成率
売上高	125,598	122,282	△3,316	△2.6%	139,000	88.0%
冷蔵倉庫事業	31,827	35,127	+3,300	+10.4%	33,950	103.5%
食品販売事業	93,712	87,095	△6,617	△7.1%	105,000	82.9%
その他	58	59	+1	+1.7%	-	-
セグメント利益	7,685	8,697	+1,012	+13.2%	-	-
冷蔵倉庫事業(※)	6,689	7,198	+508	+7.6%	6,650	108.2%
食品販売事業(※)	961	1,473	+512	+53.3%	1,950	75.5%
その他(※)	33	25	△8	△24.2%	-	-

※ 各セグメント利益は、配賦不能営業費用（管理部門にかかる費用）の控除前です。

冷蔵倉庫事業 - 売上高分析 -

- 前期からの高い在庫水準が続き、保管料収入、荷役料収入、関連する運送取扱収入、通関取扱収入も増加。コスト上昇分の料金改定も進み増収
- タイの連結子会社においても、主力取扱品である畜産品、乳製品の取扱量が増加し、増収

(単位：百万円)

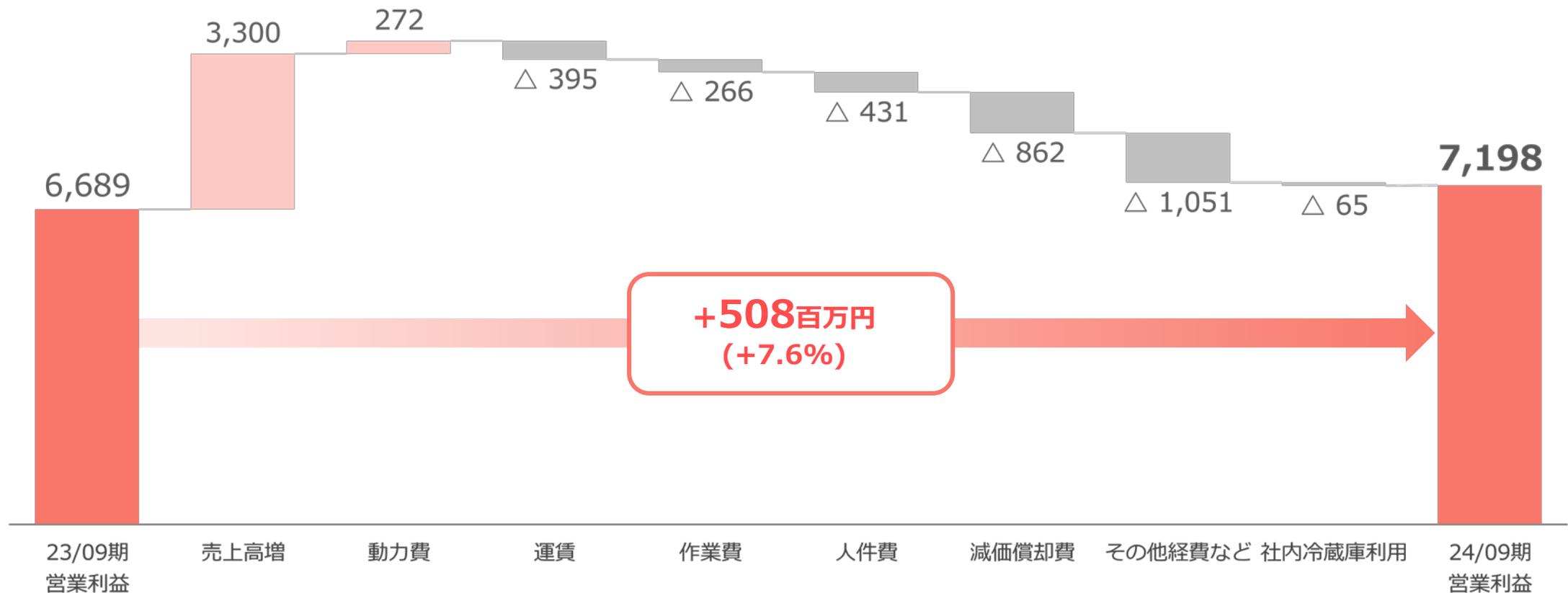


貨物の取扱状況 (前年同期比)	
入庫取扱量	+5.4%
出庫取扱量	+4.6%
平均保管在庫	+2.0%
平均保管単価	+5.8%

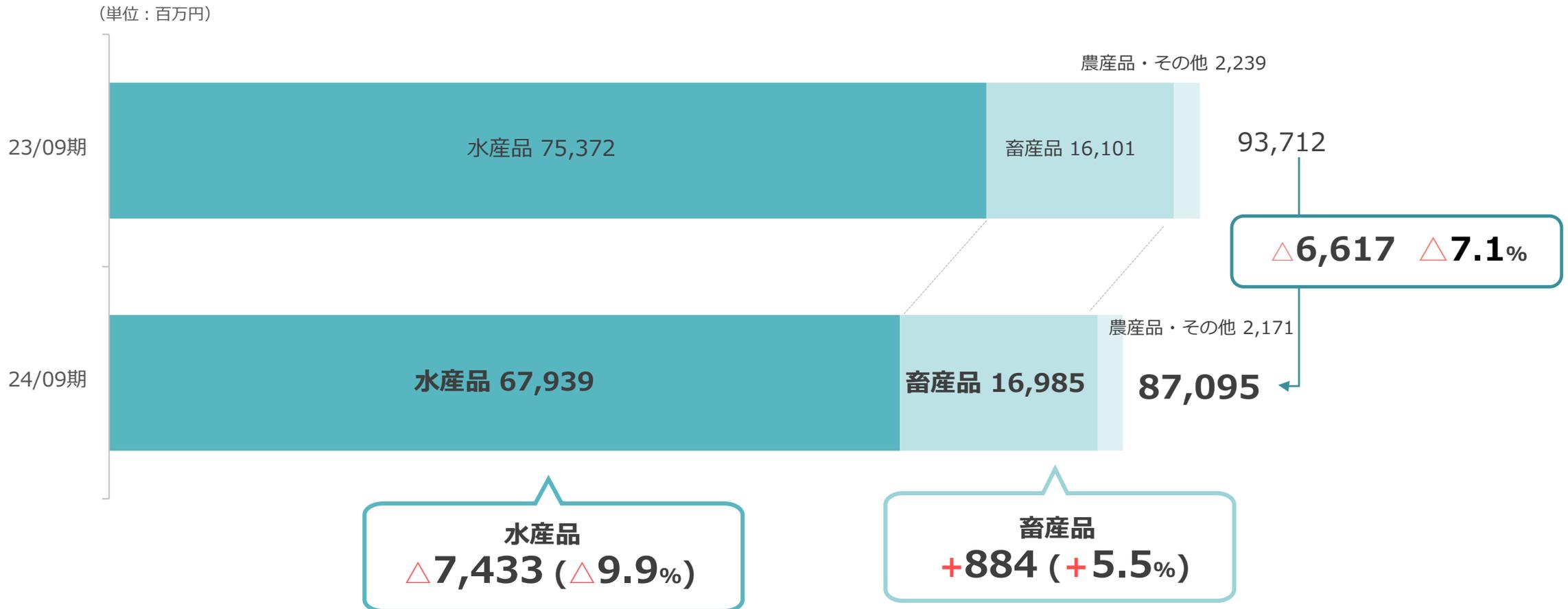
※荷役料：倉庫への商品の入出庫作業や、仕分け作業に対する収入

- 堅調な需要増による売上高3,300百万円の大幅増収により、今期竣工した3つの物流センターの減価償却費,立上り経費等のコスト増を吸収し508百万の増益

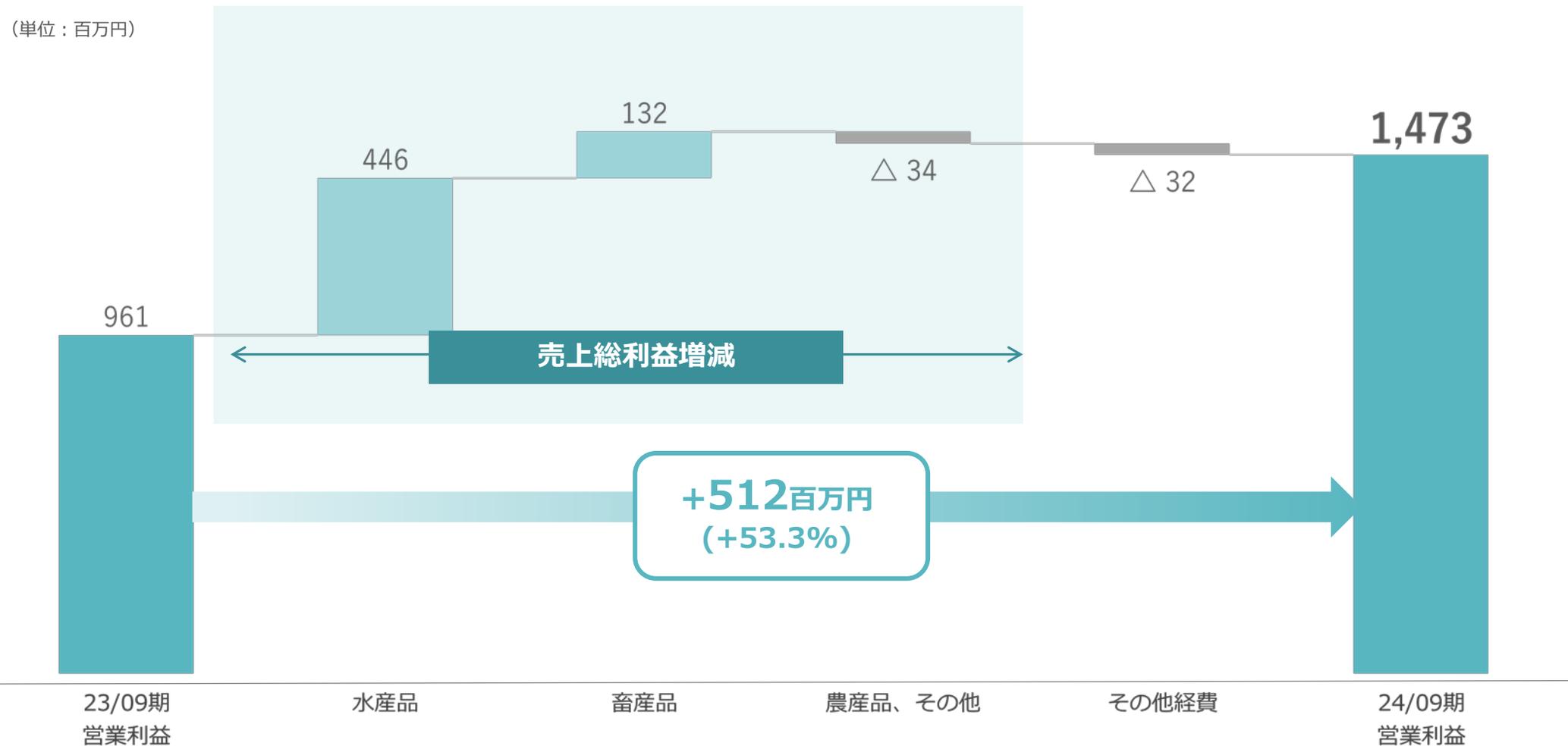
(単位：百万円)



- 水産品： 利益重視の販売取組により減収ながら増益
- 畜産品： インバウンドや外食向け需要回復により、ポーク、チキンが増収増益



- 水産品の大幅増益および畜産品の増益により、セグメント利益は512百万円の大幅増益



中期経営計画の進捗状況

Progress of Mid-term Business Plan

1. 特別損失計上と過年度の決算訂正について
2. 2024年9月期 決算実績
3. セグメント別 決算実績
4. 中期経営計画の進捗状況
5. 2025年9月期 通期業績予想

冷蔵倉庫事業

伝統と革新を融合したスマートコールドサービスをお約束します

定量目標

- ① セグメント売上高 **400億円**
セグメント利益*100億円
- ② 多機能&オートメーション化低温物流センター
⇒2030年までに10センター新設<庫腹約25万トン増>

食品販売事業

お客様とともに食の独自価値を実現し、生産者に寄り添い守り、世界の食卓を豊かにします

定量目標

- ① セグメント売上高 **1,300億円**
- ② セグメント利益率* **3.0%以上**

環境活動

自然冷媒導入率 **85%以上**

太陽光発電能力 **20メガワット**

全社定量目標

連結売上高
1,700億円

連結営業利益
100億円

EBITDA
170億円以上

*セグメント利益は、配賦不能営業費用（管理部門にかかる費用）の控除前です

「繋ぐ力」 新・中期経営計画（第Ⅱ期） 2024年9月期～2026年9月期

2026年9月期数値目標

売上高 **1,500億円** 営業利益 **65億円**
 EBITDA **130億円**
 ROE **5%以上** 自己資本比率 **40%台**を維持

冷蔵倉庫事業

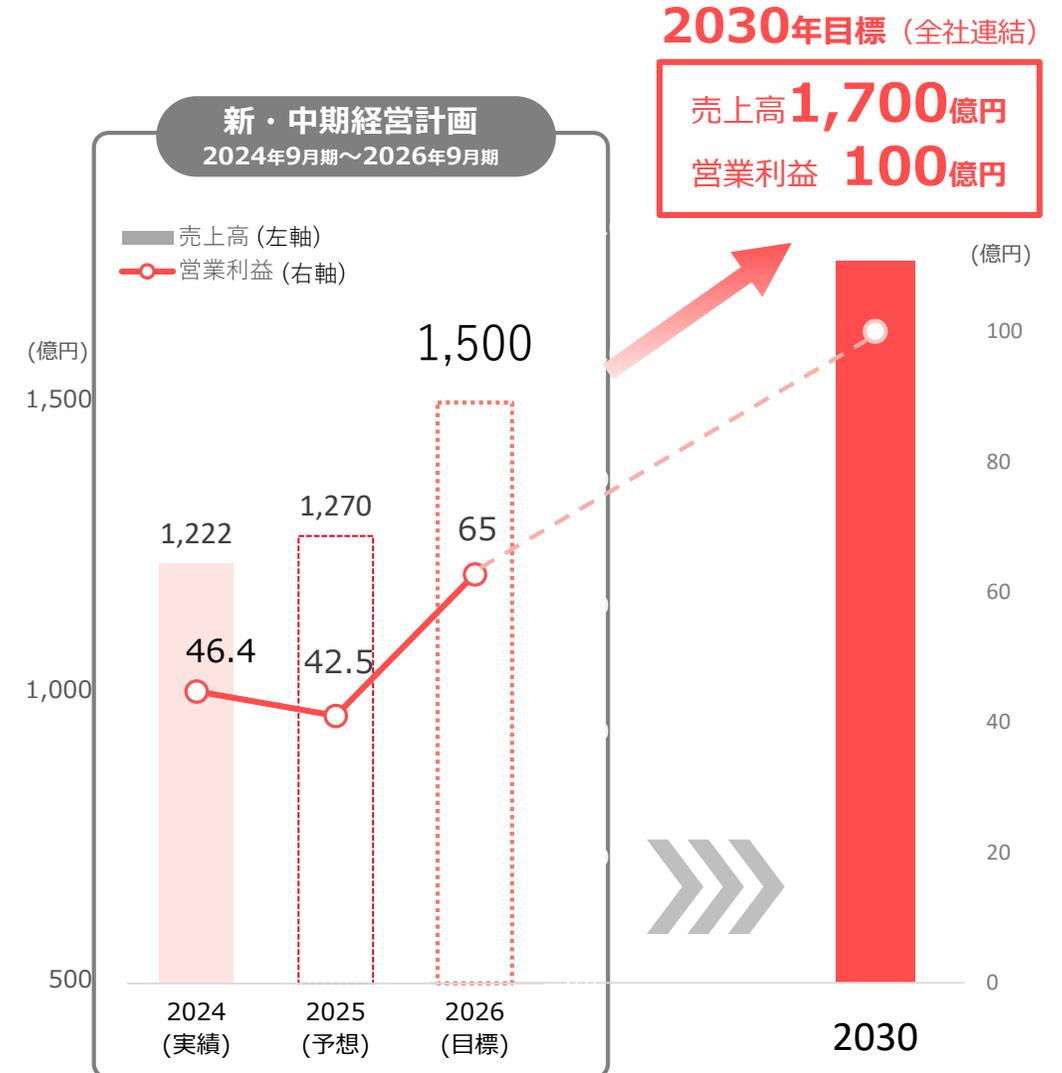
数値目標： 売上高 **360億円** セグメント営業利益 **80億円**

食品販売事業

数値目標： 売上高 **1,140億円** セグメント営業利益 **25億円**

経営基盤

生産性を向上させ事業の成長スピードを加速化させる

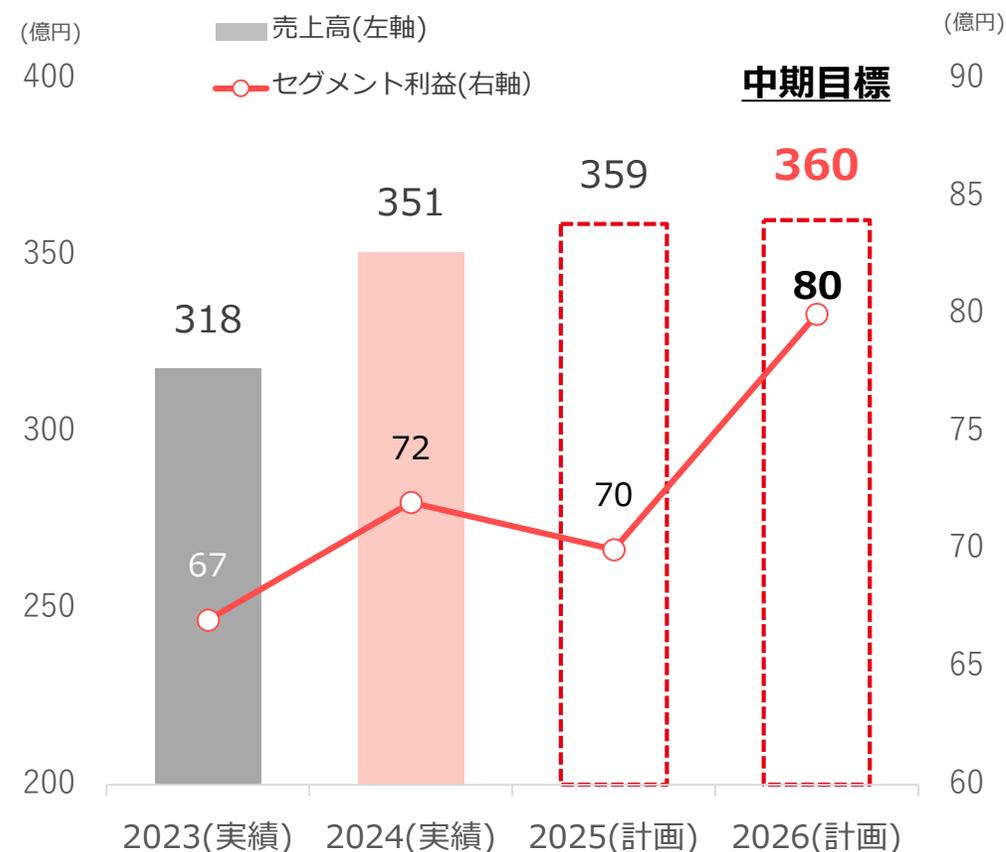


※セグメント利益は、配賦不能営業費用（管理部門にかかる費用）の控除前です

- 環境配慮型センターの竣工が順調に進み、**売上高・利益ともに順調に拡大**
- スマートコールドサービスによる作業の効率化・省エネ化の推進により、更なる企業成長を目指す

中期経営計画重点施策

1. 環境配慮型センターの加速化
2. スマートコールドサービスの実現
3. ASEANグローバル展開



※ セグメント利益は、配賦不能営業費用（管理部門にかかる費用）の控除前です

1 環境配慮型センターの加速化

2024年に恵庭スマート物流センター、夢洲第二物流センター、箱崎FACILITY物流センターが竣工
2026年竣工予定の、当社日本海側初の長岡物流センターも着工

冷蔵倉庫拠点

2023年末
国内 **50**カ所
海外(タイ) **5**カ所

2024年
竣工

2025年
竣工予定

2026年
竣工予定

- ✓ 省人化・省力化に特化し、太陽光発電設備やリチウムイオン蓄電池を導入した最新鋭の設備を導入
- ✓ BCP対策強化

2024年2月
恵庭スマート物流センター



北海道内で要衝の地

2024年2月
夢洲第二物流センター



大阪・関西万博が行われる夢洲地区「夢洲物流センター」に隣接

2024年4月
箱崎FACILITY物流センター



博多港における需要に対応

• 当社初ベトナム進出
ベンルック物流センター（仮称）

• 北海道地区
第8の物流拠点
十勝第四物流センター（仮称）

• 中国・四国地方の要衝
岡山物流センター（仮称）

• 日本海側 当社初の物流センター
長岡物流センター（仮称）

2024年7月
着工

「地球にやさしい物流センター/BCP対応型センター」の拡大を通じて、お客様のサプライチェーンのグリーン化/持続可能化を支援

■ 中期経営計画 数値目標の進捗状況

		実績 2023年9月	実績 2024年9月	目標 2026年9月	
拠点・物流センター数(海外含む)		55事業所	58事業所	60事業所	<div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 10px; text-align: center;"> 2030年 (海外拠点含む) </div> <div style="background-color: #e8f5e9; padding: 5px; text-align: center;"> 20メガワット </div> <div style="background-color: #e8f5e9; padding: 5px; text-align: center;"> 年 6,560トン 47%削減 </div> <div style="background-color: #e8f5e9; padding: 5px; text-align: center;"> 85% </div>
太陽光発電 導入	導入事業所	22事業所	28事業所	32事業所	
	発電能力	9.3メガワット	11メガワット	13メガワット	
	C02削減量 (海外除く) (2015年比)	年 2,921 トン 33%削減	年 3,809トン 34%削減	年 4,260トン 37%削減	
自然冷媒化	導入率(冷凍機入替含む)	69%	72.4%	80%	

<p>新設センター 再生可能エネルギー 利用率</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <p style="font-size: 24px; font-weight: bold;">目標 15%以上</p> </div>	<p>2024年竣工 物流センター</p>	<p>恵庭スマート 物流センター</p> <p style="font-size: 24px; font-weight: bold;">19.1%</p> <p>(最大値)</p>	<p>夢洲第二 物流センター</p> <p style="font-size: 24px; font-weight: bold;">23.9%</p> <p>(最大値)</p>	<p>箱崎FACILITY 物流センター</p> <p style="font-size: 24px; font-weight: bold;">21.2%</p> <p>(最大値)</p>
---	---------------------------	--	--	--

完全自動倉庫

- 十勝第4物流センターに当社国内初の完全自動倉庫を導入予定

中継拠点冷蔵倉庫の積極的な活用

- 2024年問題の長距離輸送便不足対策として、協力会社と連携し、中継拠点冷蔵倉庫を活用

スマートオフィス (事務作業が遠隔でできるオフィス)

- 通勤時間の短縮、および複数事業所の業務を一括集約処理することで少人数での効率的な事務処理が可能に
- RPAの推進による省力化・省人化

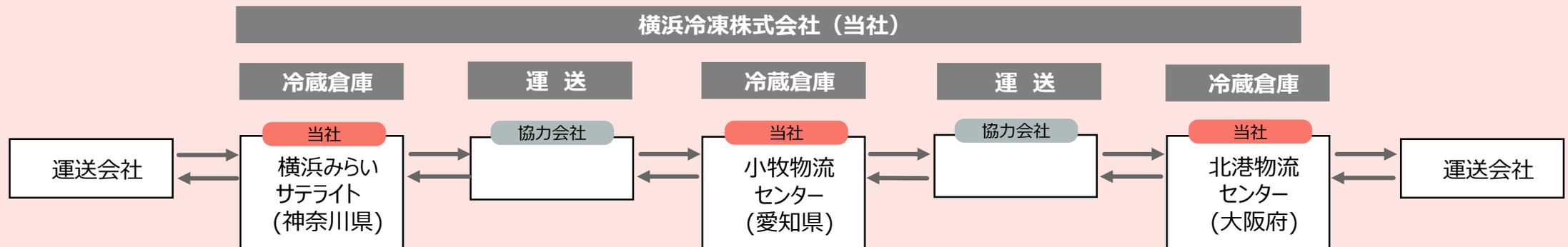
ITとロボティクス化による生産性向上の推進

- トラック予約受付システムの新システム導入
- 移動ラック、カーゴナビゲーションシステム、RFID (ICタグ) 搭載パレット等の導入の推進

通関事業のサービス拡充・営業エリア拡大

- 2024年4月、名古屋通関部開設し、通関事業部門は6拠点に

中継拠点冷蔵倉庫の積極的な活用 ～ヨコレイと協力会社との取り組み～



ベトナム

2025年3月竣工予定

ベンルック物流センター（仮称）

- ホーチミン市と、ベトナム南西部のメコンデルタ地区を繋ぐ物流拠点



タイ

2027年春竣工予定

スワンナプーム物流センター（仮称）

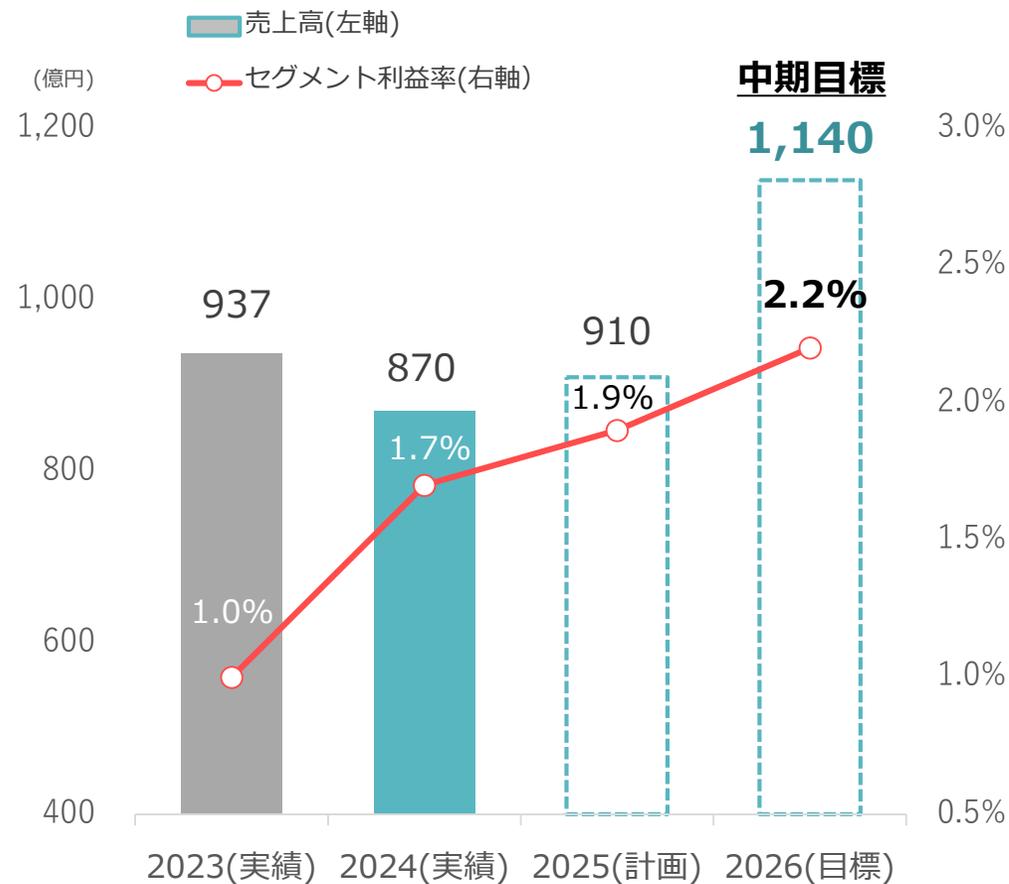
- タイ国内のトラック輸送拠点
- バンコク市内の人口増による物流網の再構築



- 構造改革による収益性向上により、**セグメント利益率が大幅に改善 (+0.7pt)**
- 国内外の販路拡大および独自製品の開発をすすめ、中期目標達成を目指す

中期経営計画重点施策

1. 収益性向上のための構造改革
2. 事業品・全社取組商材の販路拡大
3. 独自商品と販売網の開発
4. 海外における販路拡大



1 収益性向上のための構造改革

販売推進事業部の取り組み

- 販売推進事業部の傘下に国内並びに海外販売推進室を設置し、国内および海外の商圏を開拓
国内：全国の営業データを可視化し、今後の戦略を立案
海外：タイ・ベトナムを中心にASEAN商圏の開拓

DXの取り組み

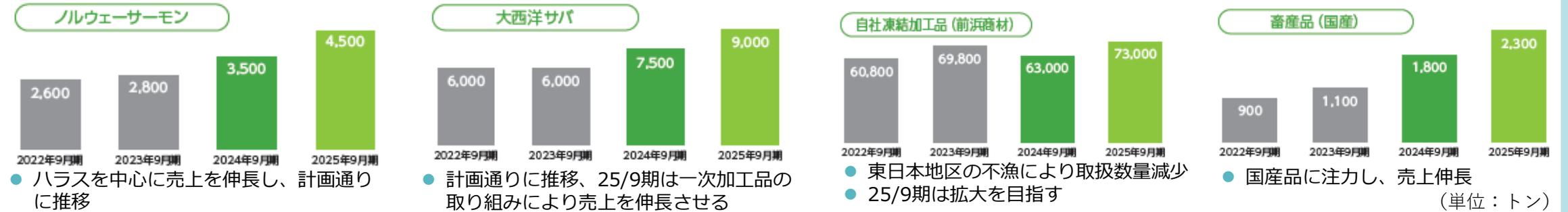
- 商談共有システムのテスト導入
全国の営業活動を一元管理することで新たな販売機会を創出

人材育成

- 全国の営業マンを対象にサミットを開催し、若手の交流を促進
- 各商材に精通したスペシャリストの育成に注力

2 事業品・全社取組商材の販路拡大

その他の事業品・全社取組商材についても、引き続き、販路拡大を推進



3 独自商品と販売網の開発

- 医療食の販売拡大
- 一次加工品のラインナップ拡充
- 公式オンラインショップでのラインナップ拡充・販売拡大

4 海外における販路拡大

- 海外取引先の販路を活用し、販売先、資源のリソース獲得を目指す
- 養殖ブリ加工品（世紀ブランド）の輸出強化

5

2025年9月期 通期業績予想

Earnings Forecast for FY2025

1. 特別損失計上と過年度の決算訂正について
2. 2024年9月期 決算実績
3. セグメント別 決算実績
4. 中期経営計画の進捗状況
5. 2025年9月期 通期業績予想

2025年9月期 通期業績予想



(単位:百万円)

	24/09期 通期実績	25/09期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	122,282	127,000	+4,718	+3.9%
冷蔵倉庫事業	35,127	35,900	+773	+2.2%
食品販売事業	87,095	91,000	+3,905	+4.5%
営業利益	4,647	4,250	△397	△8.5%
冷蔵倉庫事業	7,198	6,930	△268	△3.7%
食品販売事業	1,473	1,700	+227	+15.4%
配賦不能費用他	△4,049	△4,120	-	-
経常利益	4,808	4,150	△658	△13.7
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	3,933	2,800	△1,133	△28.8
減価償却費	7,365	8,453	+1,088	+14.8%

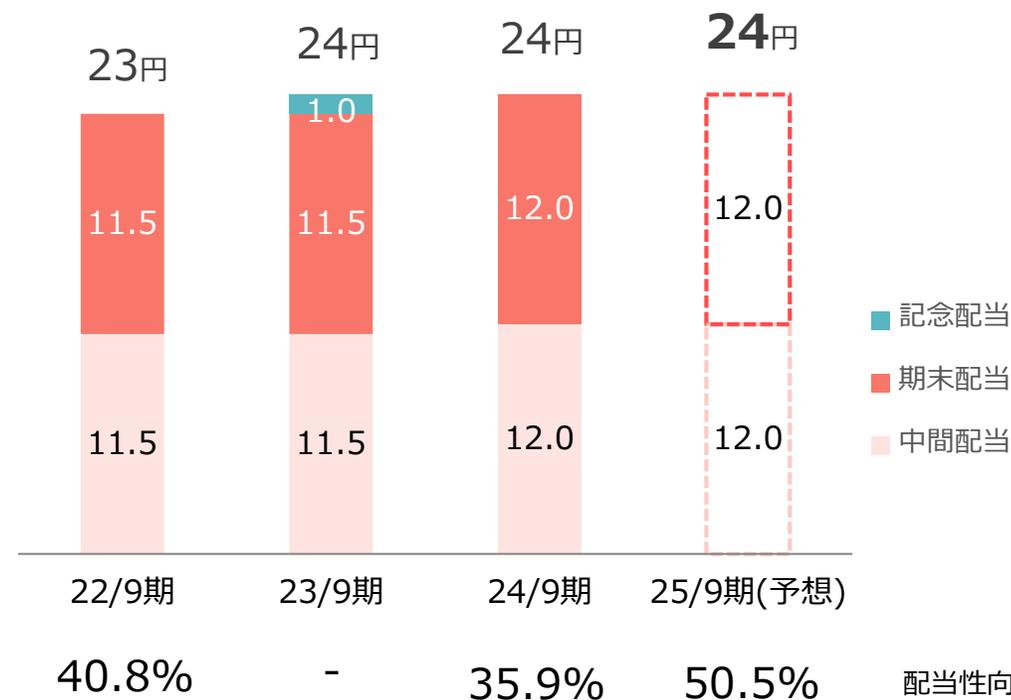
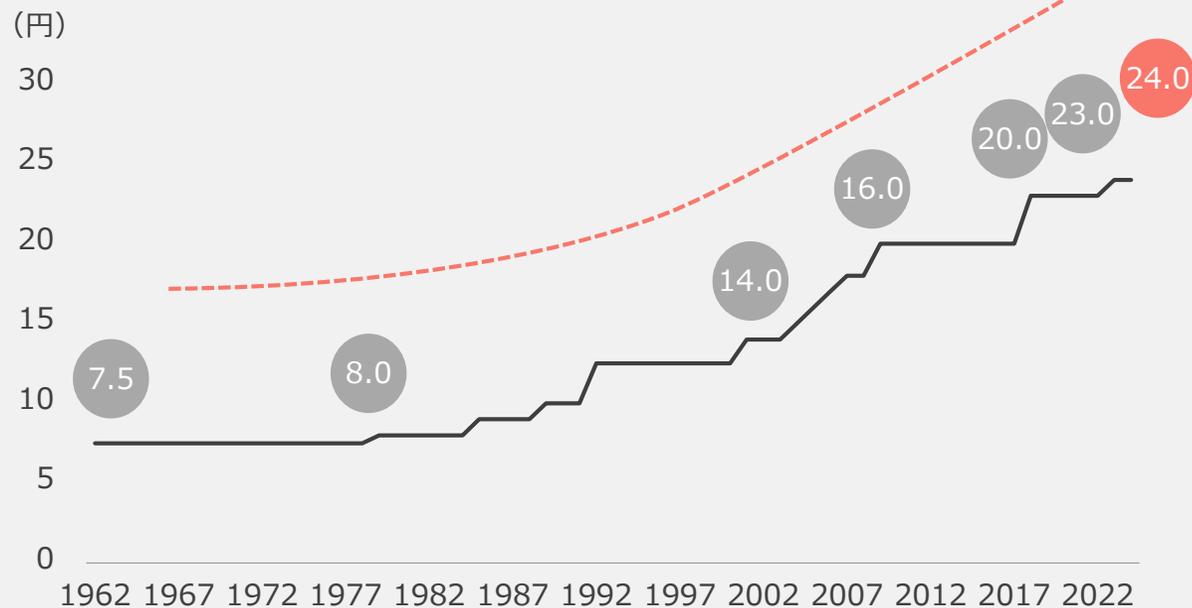
※ 各セグメントの営業利益は、配賦不能営業費用（管理部門にかかる費用）の控除前です。

着実な成長と累進配当

1962年の東証二部上場以来、半世紀以上増配を継続

25/9期予想 年間 **24円**

－年間配当推移－



配当性向



ヨコレイ本社 (横浜コネクトスクエア10F)

会社名	横浜冷凍株式会社		
本社所在地	横浜市西区みなとみらい三丁目3番3号 横浜コネクトスクエア10F		
設立	1948年5月13日		
代表者	取締役会長	吉川俊雄	
	代表取締役社長	古瀬健児	
資本金	14,303百万円		
事業拠点	冷蔵倉庫事業	国内53	海外5
	通関事業	国内5	
	食品販売事業	国内21	海外1
従業員数	連結	1,736名	単体 1,401名
上場証券取引所	東証プライム (証券コード 2874)		

※2024年9月30日現在



人とおいしさのあいだに

おいしさは、ココロを満たす
おいしさは、カラダをつくる
すべての人を幸せにするみなもと

食により添い、食を豊かにする
かかせない存在として、
私たちはこれからもずっと
そのおいしさを守り続けていきます

冷蔵倉庫と食品販売
ふたつの事業で日本へ、世界へ
人のために食をつなぐ使命を果たします

生産地から食卓まで、
食にかかわる人たちの
ほほえみもつないでいく

人とおいしさのあいだに
ヨコレイ

本資料に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、将来の数値等に関する記載については、不確実な要素を含んだものをご理解ください。

当社の事前の承諾なしに、本資料に掲載されている内容の複製、転載等を行うことを禁止します。



◀ 横浜冷凍(株)ホームページは
こちらをスキャン

お問い合わせ先

横浜冷凍株式会社 IR部

TEL: 045-210-0011

E-mail: info@yokorei.co.jp

URL : <https://www.yokorei.co.jp/>